平成１６年度第３回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：２００４年４月１０日（土）１３：００～１８：００

場所：早稲田大学国際会議場４階共同研究室 No.7

出席者：石渡会長、美宅副会長、難波副会長、有坂、片岡、栗原、諏訪、永山、三木、薬師、宇高、石島、金城、国岡、安永、若杉、各運営委員、阿久津会誌編集委員長、川端支部長（北海道）、新田年会(H17)実行委員長、葛西 E-journal 編集長予定者、河合秘書

報告事項：

（１）男女共同参画・若手問題検討委員会報告

三木委員より男女共同参画・若手問題検討委員会の報告がなされた。資料（報１）は１回目の議事録である。午前中、２回目の男女共同参画・若手問題検討委員会が開催され、年会での男女共同参画シンポジウムの内容について議論され、オーガナイザー（国岡、諏訪、若杉）が決まった。男女共同参画シンポジウムを、弁当をだしランチョンセミナーの枠で行ったらどうかという案がだされた。どうするかは、今後話し合うことになった。

（２）男女共同参画学協会連絡会報告

男女共同参画学協会連絡会の報告が国岡委員よりあった。男女共同参画学協会連絡会があり、１周年記念行事報告書を３０部（300 円 x30 部=9,000 円）購入した。アンケート結果は、公表許可が文部科学省からおり次第、ホームページに掲載する。日本物理学会連絡会で常勤職の有無に関係なく全て科研費等に応募できるようにとの科研費枠拡大の提言がなされたが、対象をもっと絞った方がいいのではとの意見がだされた。具体的には、ポスドクは他の予算で雇われているので、科研費に申請できるのはおかしいとの意見が出された。

（３）平成１６年度年会準備状況

平成１６年度年会準備状況に関して、森島平成１６年度年会実行委員長が欠席のため三木委員が代わって説明した。公開シンポジウムに関してはまだ交渉が進んでおらず、具体的には決まっていない。一般シンポジウムは、３日間、午前、午後それぞれ４会場あり、１日８シンポジウム、３日間で最高２４シンポジウム行うことができる。一般からのシンポジウムへの応募は７件であった。また、費用負担可能な団体によるシンポジウムは６～７件であった。これらのシンポジウムの内容を至急メールで運営委員に連絡し、内容に重複がないかどうか、学会にふさわしい内容であるか検討することになった。また、一般からの公募件数が７件というのは少なすぎ、大問題であるとの意見が出された。年会の一般シンポジウムに関して、運営委員会の年会担当委員が積極的に行うのか、年会実行委員会が積極的に行うのか議論がなされた。前回及び従来同様、運営委員会の方で主体的に行うことになった。シンポジウム

の内容をみて、全体のバランスをよくするために、シンポジウムの無い分野に関しては、ポスター応募の中からポスターセレクションとして３あるいは４件シンポジウムを行うことに決まった。また、若手をセレクションするシンポジウムも１件、昨年同様実施することになった。年会のアナウンスを生物物理学会誌６月号（5 月２５日郵送）で行う。〆切については、サイペックに問い合わせることになった。
ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム提供のヒューマンフロンティアレクチャラーは、講演者１名、１時間とし、シンポジウムとは別枠で行うことになった。ランチョンセミナーは１２枠ある。懇親会は、宝が池プリンスホテルのプリンスホールで行うことになった。会場費は、約１０００万円の見込みである。年会の経費の合計の見積もりをたて、もし全部で赤字が見込まれるのであれば、年会の参加費を上げるべきであるとの意見が出された。また、札幌の学会からは、本格的に年会の参加費を上げる必要があることで了承された。

年会全体のシンポジウムの構成は次の通りである。
１）ヒューマンフロンティアレクチャラー
２）実行委員会主催シンポジウム
３）公募シンポジウム（一般からの公募、ポスターセレクション、若手セレクション）
４）費用負担シンポジウム
５）男女共同参画シンポジウム

（４）平成１７年度年会準備状況
川端支部長（北海道）より平成１７年度年会準備状況について説明された。平成１７年度年会は札幌コンベンションセンターで１１月２３日、２４日、２５日に開催される。２６日には、公開シンポジウムが開かれる。ポスター（９００枚まで）、１６～２０件のシンポジウム、１２件のランチョンセミナーが計画されている。会場費、パネル、映像費など（人件費は除く）で７００万円かかる予定である。
提案１。ここ数年をみて年会費をあげる。
提案２。年会運営のマニュアルを作製する。パッケージとしてあとに残す。

（５）平成１７年度科研費審査委員選挙結果
平成１７年度科研費審査委員選挙の開票結果（資料：報５）について石渡会長より説明があった。生物物理研連１３分野（窓口研連５つ、関連研連８つ）に対し、合計７０名のリストを３月末に提出した。この中からプログラムオフィサーにより委員が選ばれる。
生物物理分野の科研費申請領域の選択肢は広く、これにはよい面と悪い面とがある。他の分野への申請者が増えると生物物理の区分が縮小してしまうかもしれないので、生物物理区分にだすべきであるとの意見が出された。

（６）平成１７年度次期会長候補者選挙結果報告

石渡会長より、平成１７年度次期会長候補者選挙結果報告（資料：報６）があった。２８名の投票があり、５票までとった人を候補にし選挙を行い、次期会長候補者を３名、補欠を２名決定することに決まった。（議題６へ続く）

（７）生物物理学研連委員会報告
栗原委員より、生物物理学研連委員会報告が第１回、第２回生物物理研連議事録（報７）をもとに説明された。石渡会長が生物物理研連の委員長に選出された。科研費問題について議論された。研連に小委員会（研究キャリア・人材育成検討小委員会：栗原委員長）を作り、男女参画・若手委員会と研究体制委員会と連携して生物物理学からみた提言を行うことに決まった。科研費に関して学会員がどこに申請し、どの位採択されたか、研究体制委員会（中村委員）に項目ごとに調査してもらうことになった。
学術会議改革の現状として、内部組織を現行の７部制から「人文科学、生命科学、理学及び工学」の各分野を中心とする３部制に改組されることが報告された。東アジア生物物理シンポジウムに関しても審議された。

（８）生物科学学会連合報告
生物科学学会連合の報告（資料：報８-1、報８-2）が石渡会長よりあった。
8-1. 生物科学連合より、文部科学省の原子力安全課長あてにウランの使用規制（１ｇ未満）では、研究、診断に支障が生じるとの要望書が提出された。
8-2. 生物科学連合より、文部科学省に対してポストポスドク問題に対する要望書が出された（生化学会誌に掲載）。

（９）HP 改良について
安永委員より、石渡会長からのホームページ改良の要望と対応策（資料：報９）に関して説明があった。

（１０）物理学会との関係について
物理学会との関係について資料（報１０）に基づき中村委員より説明があった。物理学会に、生物物理分野（領域１１、１２）があるので発表して下さいとの案内がなされた。

（１１）平成１５年度北海道支部会活動報告および決算報告
川端北海道支部長より、平成１５年度北海道支部会活動報告および決算報告（報１１）があった。

（１２）電子図書館サービス連絡会の報告・今後の方針
安永委員より、電子図書館サービス連絡会の報告・今後の方針について資料（報１２）に基づき説明があった。J-Stage（無料公開サーバー）と電子図書館サービス（課金可能）があ

るが、電子図書館サービスは終了する。コンテンツは全て引き継がれる。次回、あるいは、その次の運営委員会で決めなければならない。

（１３）邦文誌オンライン情報の使用状況
安永委員より、邦文誌オンライン情報の使用状況（報１３）について報告がなされた。

議題：
（１）平成１５年度決算報告（案）の承認
有坂委員より、平成１５年度決算報告について収支決算報告書、貸借対照表、「会誌電子化・将来事業特別会計」特別会計決算報告書（議１）に基づき、報告がなされた。広告収入、特別会計以外は昨年度と同様である。年会で赤字が出そうな場合、事前に運営委員会に相談する必要があるとの意見がだされた。

（２）E-journal (Biophysics)について
E-journal (Biophysics)について、葛西道生氏より、資料（議２）に基づき説明があった。午前中の出版委員会で、サイペックから中西印刷に移すことで合意した。この移行は運営委員会でも承認された。来年１月から英文 Journal を始める。サイペックと中西印刷とは、費用の面では差はないが、英文 Journal を出す実力が余りにも違う。タイトルは、Biophysics とする。Page charge は、 会員（１万円＋2,000 円 x ページ数)、非会員（３万円＋2,000 円 x ページ数）とする。すべて電子投稿。Reject 率 60%として計算すると、８ページ出して９万円（３万円の個人負担、６万円の赤字）となる。赤字が多いため、交渉する必要がある。年に一巻、Volume 1 から始める。受理されたものから順にページをふって掲載する。中西印刷は、和文の会誌も始める。サイペックから中西印刷へ移行するスケジュールをたてる。今年中は雑誌はサイペックから出す。１月から中西印刷から出す。中西印刷と検討し、和文の会誌の表紙を変える。英文 Journal の評判、質などをみた後、会費をあげるかどうかを検討する。このために、一年程待ち、様子をみて会費をあげるかどうかを決める。

（３）名誉会員の規定について
片岡委員より、名誉会員の規定案（議３）について説明がなされた。名誉会員推薦規定（資料：議３）を次回の７月に決め、１２月の総会で提案することに決まった。３０年以上本学会会員という条件は限定がきつすぎで、２０年位でもいいのではとの意見も出された。１回３名位まで。毎年あるいは１年おきに推薦。詳細について議論し、意見があれば、片岡委員にメールで連絡することになった。
若手の賞：札幌年会からできるように、７月位に案をだし、１２月の総会で認め、翌年から実施する。

（４）2006 年東アジア生物物理学会議と平成１８年度年会の合同開催について

難波副会長、永山委員より、2006 年東アジア生物物理学会議と平成１８年度年会の合同開催について資料（議４）に基づき説明があった。沖縄コンベンションセンターで行う。この会場は那覇からバスで３０～４０分のところにあり、ホテルも近くにある。費用の概算、見積もりは１７０５万円。合同国際会議とし、期間は３日間あるいは４日間とする。参加費は、２万円、２００ドル位。発表は英語で行い、Abstract も英語とする。ポスターがメインのためポスターセレクションのシンポジウムを設け活性化させる。７月の運営委員会までに素案を作り、運営委員会で議題として取りあげ、１２月運営委員会で決める。学会の開催日程は、秋（１１月初めあるいは１０月末）とする。

（５）平成１７・１８年度学会委員候補者補充について
平成１７・１８年度学会委員候補者補充について石渡会長より説明があり資料（議５）の文面で会誌６月号に出すことで承認された。４月２０日までに、運営委員による候補者の推薦を行う。

（６）平成１７年度次期会長候補者選出手続き及び選出
平成１７年度次期会長候補者選出手続きについて石渡会長より、資料（報６）において上位７名より、次期候補者３名および補欠２名（順位をつける）を選ぶとの説明があった。運営委員による選挙が行われた結果、木下一彦氏、永山国昭氏がまず、次期候補者に選ばれた。３位、４位は同点で、美宅成樹氏、難波啓一氏であった。5 位は、阿久津秀雄氏で、補欠（２位）に決まった。３位、４位の再選挙がおこなわれ、美宅成樹氏が次期候補者、難波啓一氏が補欠（１位）に選出された。まとめると、次期会長候補者３名は、木下一彦氏、永山国昭氏、美宅成樹氏、補欠（１位）は難波啓一氏、補欠（２位）は阿久津秀雄氏に決定した。

（７）平成１７年度次期会長および平成１７・１８年度学会委員選挙要項（案）
石渡会長より、平成１７年度次期会長および平成１７・１８年度学会委員選挙要項（案）（資料：議７）について説明があり、選挙公告の資料（議７）を会誌に出すことで承認された。但し、「氏」、「そのものについて」の２箇所修正されることになった。

（８）Web による会員情報閲覧・更新システムについて
Web による会員情報閲覧・更新システムについて安永委員より資料（議８）に基づき説明があった。パスワードを忘れた時、お金（封書代、送付料＋てま代など）を請求することに決まった。金額については、今後議論する。システム稼動までのスケジュールとしては、２００４年４月３０日に学会会員にユーザ ID, パスワードを郵送し、５月１０日に運用開始予定である。

（９）若手の会夏の学校援助金について
若杉委員より、資料（議９）に基づき、生物物理学会若手の会から若手の会の活性化のため

に生物物理学会に対し２０万円の援助の申請があったことが報告された。審議の結果、以下の理由で予算案の費用を削ることは可能との判断で、生物物理若手の会に対し１０万円のみ援助をすることに決まった。
１）講師交通費の費用が高すぎる。もっと講師交通費を削ることができる。
例えば、講師が生物物理学会会員であるならば、交通費を支給する必要はない。さらに、費用をおさえるために、講師をできるだけ会員から選ぶなど工夫、努力が必要である。
２）2003 年　若手の会　会計資料において、酒代が高すぎる。（酒代とは懇親会費のことなのか。）

（１０）その他
１２月号生物物理会誌はイメージング特集号である。この特集号では、カラーが必要である。４ページのカラー代として２５万円前後了承された。
また、研連の報告書として５～１０万円が了承された。

連絡事項：
次回運営委員会日程について
７月１０日（土）１３：００～　早稲田大学本部キャンパス 14 号館 801 室

以上（書記：若杉　桂輔）